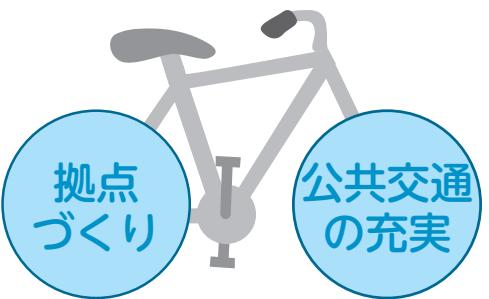




## 図2 立地適正化計画



教室などに出掛けて社会収集  
画するようになり、今まで  
静かだったまちが動き出す  
と、地域の活性化が期待で  
きます。

上させるものです（図1）。  
1月から、中山間地域で  
自主運行バスが走るように  
なりました。特に佐伯・吉  
和間の運賃は最大約100  
円だったものが、150  
円の定額になり、利用者は  
倍に膨らんだそうです。高  
齢者が週に1回でも趣味や

すなど、サービスを同等にすることはできないこと。代わりに最低限のことは地域でまかなえるよう、今ある機能を維持し、高密度なサービスが必要なときは沿岸部の拠点まで安く行ける移動手段を確保します。拠点から離れれた人たちの公共交通を便利よくすることと、サービスを向

「形成計画」です。廿日市市の特徴として、市街地を形成していく沿岸部、世界的な観光地の島しょ部、佐伯・吉和地域の中山間部など、市内の地域特性が極端に違う点が挙げられます。難しいのは、全ての地域で同じレベルの医療や商業施設などを増や

## 2. 途切れない公共交通網の整備

廿日市市都市計画審議会  
立地適正化計画専門部会  
たかい ひろゆき  
高井 広行 部長

**Profile**  
元近畿大学工学部建築学科教授。都市計画・建築を専門とし、学識的な視点から計画のとりまとめを行う。

民」となつてしまひます。この流れを踏まえて、まちはどうあるべきかを考えていく中で、「分散して拡がつてしまつた部分を集約していこう」となり、こうして作られたのが「拠点の形成による持続可能なまちづくり計画」、正式名称「立地

言語を想起させるもの。車輪

これから20年かけてまちの「拠点づくり」を行います。各地域によって拠点の役割は異なり、例えば市役所周辺には、行政機能や福祉施設、商業施設を維持・集約する、全市民を対象とした「都市拠点」やJIA広島総合病院を中心とした「地域医療拠点」を作り、生活に必要な機能がすべてそろう効率の良いまちを整備します。佐伯地域の津田・友和地区には「中山間地域の中心となる拠点」と、沿岸部や吉和地域を結ぶバスが止まる「交通の拠点」を作ります。

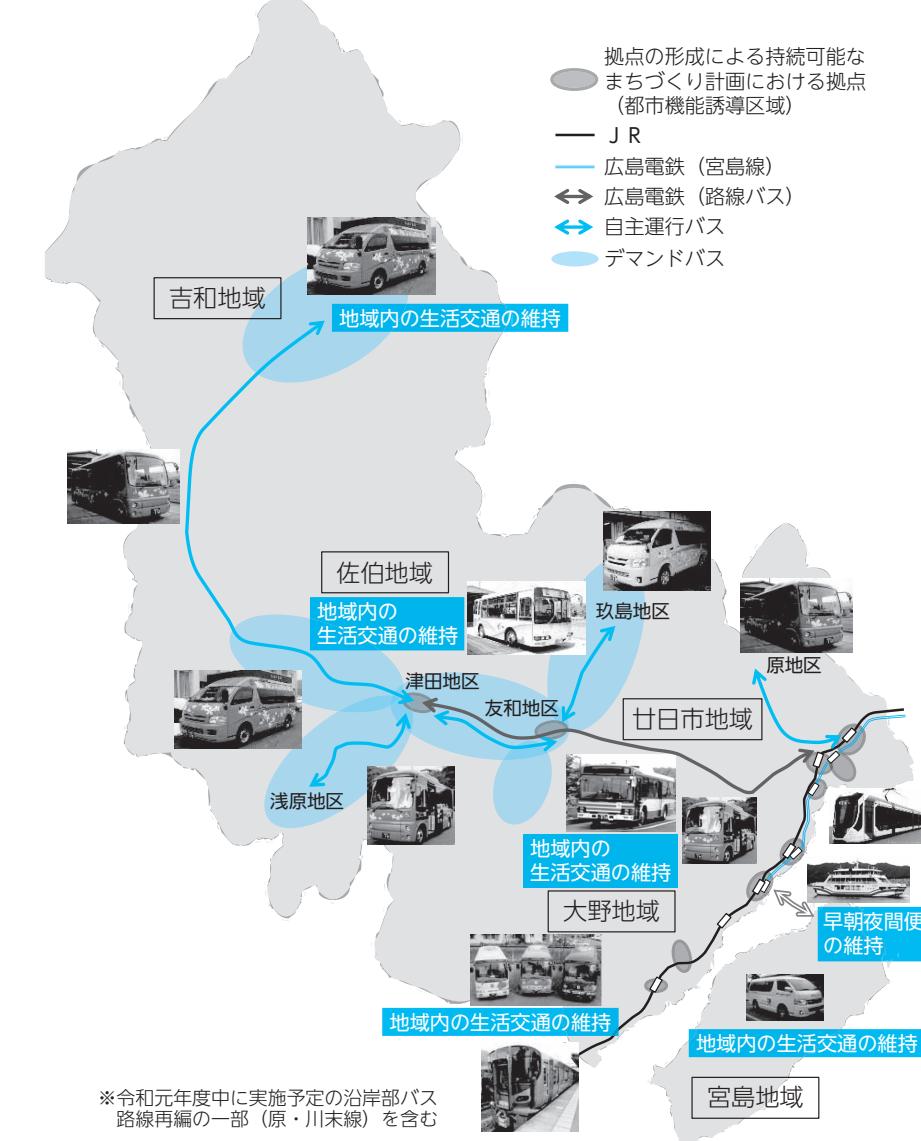
立地適正化計画を支えるもの  
1つの計画が「地域公共交通網

皆さんの声が生かせるように――

ちの中心になつてくるときです  
20年後のまちを担う子たちには  
特にこの計画を知つてもらい、  
「廿日市市はこう動いているん  
だな」と認識してもらえると、  
廿日市市を「わがまち」と捉え  
さらに愛着を持つようになりま  
すよね。

総論的な計画の話になると、  
どうしても皆さん関心が薄くな  
ります。自分たちのまちのこと  
ですので、まずはこの計画を少  
しでも見てまちの未来を一緒に  
考えていきましょう。

## 図1 都市の骨格図



人が減つても  
住みやすい。  
コンパクトな  
まちをつくる――

■ 有識者に聞く—

「そもそも人口減少は何が問題なの？」  
「難しそうな名前だけど…立地適正化  
計画って何？」

廿日市市のまちづくりのこれからを、  
廿日市市都市計画審議会立地適正化計  
画専門部会の部会長を務めた高井広行  
さんに聞きました。

全国の「ハーバウ」の今

## 「リニア・ツーリズム」の歴史

立地適正化計画の策定

**立地適正化計画の策定**  
までの拡大・成長していた時代のまちづくりから、大きく考え方を転換していく必要があるのです。